令和7年度　スクール・エンパワーメント推進事業
情報活用能力をはぐくむモデル校

取組み内容：学び方を深める「ふりかえり」の習慣化

門真市立門真小学校

大阪府情報活用能力ステップシートの関連項目

E- STEP2

つけたい力

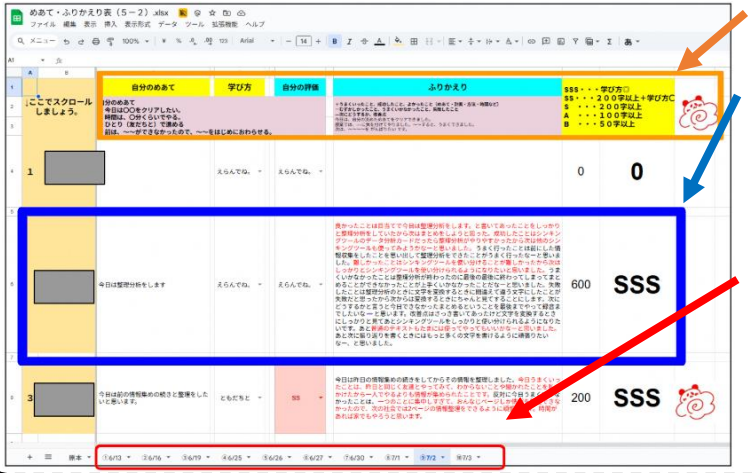
・自分の学びを客観的に振り返り、次の行動に活かす力
・計画性・調整力・学び続ける力など「学びに向かう力」
・他者の意見や学び方を取り入れ、自分の学びを改善する力

取組みの概要・ポイント

・毎時間の学習後に、めあての達成度や学び方について児童自身が「ふりかえり」を記述する取組みを実施。
・ふりかえりはスプレッドシートで管理し、児童どうし・教員からのフィードバックが即時に共有される。
・優れた学び方には赤字や花丸マークを使い、クラス全体で良い学び方を学び合う仕掛けを用意。

具体的な取組みの内容

・フォーマットに「めあて」「学び方」「ふりかえり」を設定し、特に「学び方（誰と学ぶか）」を明確にして協働学習を促進。
・毎回の授業で優れたふりかえりをクラス全体で共有し、学び合いを促進。



オレンジ色の四角の部分：今日の「学習のめあて」と「学び方」「自分の学習評価」「ふりかえり」という項目です。ふりかえりについては、文字数と学び方の質によって評価します。

青の四角の部分：「名前」と「今日のめあて」を書くスペース、「学び方（誰と学ぶか）」、「自分の評価」の選択ボックス、「ふりかえりの文字数」「先生からの評定」＋花丸マークがあります。よく見ると、赤色で書かれている文字があります。これは、特に良い学び方、クラスのみんなに紹介したい学び方を色分けしています。子どもたちは、評定とともにこの赤色の部分を読み込み、自分の学びに活かしていました。さらに、毎時間のはじめに、授業者からの価値づけやポイントなどもコンパクトに伝えています。加えて、花丸マークが子どもたちのさらなる学習意欲へとつながっていました。
　ここでは、整理・分析の場面で、シンキングツールをためしてみて、うまく整理できた部分と、そうでない部分があったこと、また内容によって使い分けたいことが書いてありました。

赤の四角の部分：これまでの自分や仲間のふりかえりを見返すことができます。これがスプレッドシートでのふりかえりを記録していく大きな利点です。

ふりかえりの観点を提示：ふりかえりは、自分の学び方を見直し、改善していくために重要な活動です。その際、どのようなことをふりかえればいいか示す観点を提示しています。低学年でも、＋（成功したこと等）、－（失敗した等）、→（次に向けて）でふりかえりを行っています。

ふりかえりの取組みでの学びの詳細については、本校の研究HPをご覧ください。

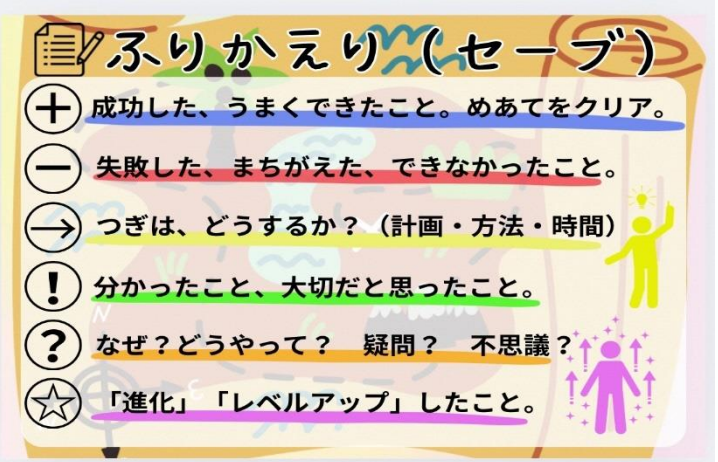
ふりかえりの観点のデータに関しては、右側のQRコードからご自由に編集することが可能です（編集はcanva）。よろしければ、ご利用ください。

子どもの変容

① 学びを「ことばにする力」
ふりかえりを習慣化することで、「自分が何を学んだか」「どう考えたか」を言語化する力が育ちました。最初は「楽しかった」「むずかしかった」といった感想中心だった子どもも、観点の提示によって、徐々に**自分の学びの意味や根拠**を具体的に書けるようになっていきました。

② 「次の自分」を意識
「→（次にどうするか）」という観点の継続的な提示により、児童は自然と「自分の学びをどう改善するか」「次はどう取り組むか」と**見通しをもって学ぶ姿勢**を身につけていきました。

③ 他者の学びから学ぶ姿勢の芽生え
スプレッドシートでのふりかえりの共有や、教員による価値づけ（赤字・花丸マークなど）を通して、児童は**仲間の学びを読む・真似る・取り入れる**ようになっていきました。

④ 自分の学び方を「選ぶ」「工夫する」意識
観点に基づくふりかえりの蓄積は、単なる反省ではなく、**自分の学び方をデザインする視点**を育てていきました。

⑤ 学級全体で「学び合う文化」
日々のふりかえり共有・教師の価値づけ・観点の明示により、児童が**お互いのふりかえりや工夫を尊重し合う空気**が育ちました。「自分の学びが友だちの刺激になる」「〇〇さんを見て、自分もがんばろうと思った」など、**互いに学び合う関係**が生まれました。